

Title	駒場野聯隊大練記(西郷従徳複製), 駒場野の聖蹟(前田清謹述)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.16, No.3 (1937. 11) ,p.164(492)- 164(492)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19371100-0165

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

駒場野聯隊大練記 (西郷從德複製)

駒場野の聖蹟 (前田清謹述)

前者は明治三年四月十七日明治天皇、當時近郊たりし駒場野に行幸、御一代最初の御閱兵とも云ふべき在京各藩諸兵の野外演習を天覽あらせられし際の何書並に指令等を集載せし記録の複製にして、原本は陸軍省の藏本である。後者は其の聖蹟を略述せられたもので、今、兩書に依つて其の状況を記述する。この演習は在京各藩の歩兵を九聯隊十八大隊に編成し、これに砲兵騎兵の若干を加へ總軍數一萬八千餘、其の軍裝は千差萬別で、中にはマンテル・ズボン・靴と云ふ新裝のものもあり、其の兵式は佛蘭西式・英吉利式・和蘭式に加へて日本風もあり、又武器に於ても同じく種々雑多で、舶來銃もあれば、種子島銃も交つて居つた。是の日天皇には御金巾子に御引直衣、即ち白の御袍に、眞紅の御長袴を召し御英姿凜然として御愛馬に乗御あつて、午前五時御出門奉迎の諸兵を隨へさせられ、途中、赤坂の上州矢田藩主吉井信謹邸と澁谷の御嶽社に御少憩、其の間は御板輿に御乗替えあり、八時駒場野の御野立所に著御、諸兵は直に三種の操練を行ふたと云ふが、如何なるものであつたか、既に不明である。午後三時舉つて拜謁並に天杯を下賜、更に優渥なる勅語を賜ひ、諸將率一同感激して之れを謹承、四時還幸の途に就かせられ、前記二ヶ所に再び御少憩、六時宮城に著御あらせられた。猶ほこの際、聯隊旗、大隊

旗等の制定があつて、當日朝に之れを渡され、演習後、直に返納せられたといふ。就中、聯隊旗の如きは今日と同じく、たゞ總を附せざることが異なる。この演習の後、藩兵は佛蘭式に統一され、翌年は鎮臺公と呼ばれたのである。如上由緒あるこの聖蹟も六十有餘年の星霜と人家の稠密とによつて自ら忘れ去られむとするに至り、西郷侯爵等夙にこれを遺憾とし、其の地に本年六月廿七日聖蹟記念碑を建造せられた。寔に敬謝すべきである。又駒場野の次に行はれた。三年九月八日越中島为天覽訓練に於ては天變突發の爲め震襟を惱し奉つたこともあれば、これ等の記録も複製保存を切望するものである。

序で乍ら明治天皇の聖蹟に關しては年々歳々指定等に依つて保存せらるるも、大正天皇の聖蹟に於ては未だ其のことを聞かぬ。寔に遺憾千萬である。一日も早く指定其の他適當の方法を講ぜられむことを切に希望する次第である。(昭和十二年七月五日武田勝藏)

慶應義塾圖書館和漢圖書分類目錄 第一卷

昨年五月先づ第四卷(政治・外交、經濟及び社會問題、統計、法律を收む、本誌十五ノ二書評欄参照)を出した本目錄はこゝに第一卷の刊行を見た。本卷に於ては第一門哲學、宗教、第二門教育を收め、第一門は哲學の項に於て、一、哲學及雜書(五八頁)、二、東洋哲學及經書(二六八頁)、三、論理(四頁)、四、心理(一五頁)